

# 新潟から発信する 地域力向上のための レジリエンスイノベーション

Zoomを  
併用した  
ハイブリット  
開催

新潟地域では、これまで地震、洪水、地すべり、豪雪などの多様な自然災害が発生してきました。また、今後、気候変動による災害の極端化、連動災害による激甚化や積雪期の地震・火山災害などの複合化が予測されています。さらに、地域は、人口減少・高齢化などの社会構造の急速な変化により、社会の脆弱性が高まっています。本シンポジウムでは、新潟大学、長岡技術科学大学や中越防災安全推進機構が行ってきた実践的な取り組みや地域共創の事例を紹介し、レジリエンスイノベーションへの展開を地域社会と共有したいと考えています。

日時 **2022年**  
**11月24日(木)**  
**13:30~16:30**  
(開場13:00~)

会場 **アートホテル新潟駅前**  
**越後の場**  
(新潟県新潟市中央区笹口1-1)

定員 会場参加：40名  
オンライン(Zoom)参加：300名

**参加費無料**

どなたでも参加いただけます。  
定員になり次第締め切らせていただきます。  
※参加費は無料ですが、オンライン参加者は、インターネットに接続する費用を負担してください。

開会挨拶 牛木 辰男 (新潟大学長)

趣旨説明 卜部 厚志 (新潟大学)

- ◆ 河島 克久 (新潟大学災害・復興科学研究所)  
大雪時の車両滞留リスクに対するレジリエンス向上に向けて
- ◆ 山口 隆司 (長岡技術科学大学)  
洪水からの早期復旧を促すブレーカー実験キットの開発
- ◆ 高橋 昌 (新潟大学医学部災害医療教育センター)  
災害医療とは
- ◆ 和泉 邦彦 (新潟大学医学部災害医療教育センター)  
災害医療ロジスティクスの重要性
- ◆ 上村 靖司 (長岡技術科学大学)  
地域除雪を通じた住民の主体性醸成
- ◆ 卜部 厚志 (新潟大学災害・復興科学研究所)  
地域力向上にむけた防災のあり方
- ◆ 諸橋 和行 (中越防災安全推進機構)  
中越大震災の復興からシン・ニイガタモデルへ

総合討論

閉会挨拶

**参加申込** 申込締切：2022年11月18日(金) 16時まで

メールにて、新潟大学災害・復興科学研究所 [nhdr\\_office@gs.niigata-u.ac.jp](mailto:nhdr_office@gs.niigata-u.ac.jp) まで、申し込んでください。  
メールの件名：11月24日社会・地域共創シンポジウム参加希望

メールの本文にて、会場参加又はオンライン参加、お名前、ご連絡先、ご所属、職名(学生の方は学年)をお願いいたします(個人情報は本件以外に使用しません)。申し込みのあったオンライン参加者へは、オンライン接続(Zoom)に関する情報を返信いたします。

主催：新潟大学

共催：一般社団法人国立大学協会・長岡技術科学大学地域防災実践研究センター  
後援：新潟県・新潟市・長岡市・中越防災安全推進機構

会場参加  
される  
皆様へ

入場の際、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下のことについてご協力をお願いいたします。

●入口に消毒用アルコールを用意しておりますので、確実に手指の消毒をお願いいたします。●場内ではマスクの着用をお願いいたします。●場内では間隔を空け距離を取りますが、咳エチケットなどの一般的な感染症対策をお願いいたします。●入場時に検温をいたしますが、発熱がある方につきましては入場をお断りいたします。●咳・発熱などの症状がある方、体調に不安のある方、新型コロナウイルス感染者や感染の疑いが高い方々に濃厚接触のあった方はご入場をご遠慮くださいますようお願いいたします。

## 令和4年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム開催のご挨拶

「地域と国の発展を支え、世界をリードする国立大学！！」



一般社団法人 国立大学協会  
会長 永田 恭介(筑波大学長)

令和4年度レジリエント社会・地域共創シンポジウムの開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

日本の国立大学は、平成16年度の法人化以来、優れた教育や特色ある研究を行うなど個性豊かで魅力ある大学になるよう各大学が工夫を凝らし、成果を上げてまいりました。また、国立大学は個々に、また総体として有する多様な学術知や、これまでの「知の資産」を結集し提供することで、SDGsの実現、グリーン・リカバリー、カーボンニュートラルの推進をはじめとして地球規模の課題を解決し、災害や感染症等に対応する高度にレジリエントで持続可能な社会の構築に貢献します。同時に、多様な地域社会の課題の解決を通して、その発展を支えています。加えて、地域で活躍する人材の育成や新たな産業創出などの地方創生の中核としての役割を担います。

国立大学協会は、3.11東日本大震災を契機に、震災等の大規模災害による未曾有の危機を克服し日本の再生に貢献するため、平成23年度から「防災・日本再生シンポジウム」を開催してきました。開催から約10年が経過し、大学を取り巻く現状や社会情勢は大きく変化しております。この変化を踏まえ、今年度から「レジリエント社会・地域共創シンポジウム」へと改称し、地域共創による防災・減災・防疫・復興に関する取り組みや、地域・キャンパスの脱炭素化や省エネの推進といった災害時のエネルギー確保にもつながる取り組み等、レジリエントな地域社会を実現していく活動について支援することといたしました。このような機会を通して、参加者の皆様からのご意見を受け止め、防災等を含めた地域貢献にかかわる国立大学の教育・研究の一層の発展に努めていくとともに、地域で防災等にかかわる活動をしておられる住民の方々、地元の自治体、政財界の方々とのより緊密な連携が強化されることを期待しております。

なお、当協会は平成22年度から、10月および11月の2か月間を「国立大学フェスタ」と銘打ち、各国立大学が地域と連携しながら実施するシンポジウム、オープンキャンパス、公開講座、市民講座などの様々な活動を集中的に皆様方に紹介しております。「レジリエント社会・地域共創シンポジウム」もこの「国立大学フェスタ」の一環です。こうした活動を展開することにより、国立大学の今を地域、社会、産業界等、広く国民の皆様にご理解いただけるよう努力してまいります。

最後に、本シンポジウムが、参加された皆様にとって意義あるものとなりますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。